月刊
オリーブ
2024
1
Vol.104

― 真の更生を目指して ―

新年明けましておめでとうございます。

２０２４年！ 新しい年のスタートです。オリーブの家をご支援下さる皆様、新年いかがお過ごしでしょうか？

去年の５月初めに新型コロナが２類から５類（季節性インフルエンザと同じ）に変わった事で社会全体になんとなく明るさが戻った気がします。オリーブの家にも関係機関からの訪問が、これを機にだいぶ増えました。12月12日には更生保護女性会のお誘いで６年ぶりの餅つきをすることも出来、ファミリーの皆さんのつきたてのお餅を口いっぱい頬張った溢れんばかりの笑顔がとても印象に残りました。12月22日には、サムエル・カンさんによる「オリーブの家ファミリー・クリスマスコンサート」を実施することが出来ました。会場は、熊本市男女共同参画センターはあもにい多目的ホールでしたが、集まった多くの方はサムエルさん、さくらさんの歌声に感動の連続でした。良いクリスマスの時間を皆さんと過ごすことが出来ました。お二人には感謝です！

元旦は５年ぶりの金峰山登山です。来年私は喜寿を迎えますが、その年の７月には「富士登山の夢を叶えたい！」と、思っています。「まずは熊本の金峰山からでしょ！」とファミリーのある方から言われたのが登山再開のきっかけです。今年はこの登山をスタートとし「一年の計は元旦にあり」、殺伐とした報道があふれる中で、まずは私たちに出来る事に集中し明るい社会を創りだす一員として、この年を歩んでまいります。

３月３日で設立丸10年（設立準備期間を入れると11年弱）を迎えるオリーブの家にとって、今年は特別な年だともいえます。４周年、５周年記念会を致しましたが、その後はコロナ禍の影響で表面的には静かな日々であったと思います。月刊オリーブ12月号の理事（今井洋子）コメントに「会社の存続率は設立10年で約６％と言われています。１００の組織が誕生しても10年後には94が消滅しているのです。」この記事を目にした時「めっちゃすごい！」と思うと同時に、存在する６％と言う数字に責任を重く感じました。５年後、10年後を見据えた意識、体制でなければならないと強く感じた次第です。

「内側が変わらなければ何も変わらない」これはオリーブの家が掲げる大きな目標となっています。11月27日にはＮＰＯ法人 女性・人権支援センターステップ（理事長 栗原加代美氏）の５回にわたる「ＤＶ加害者更生支援プログラム 選択理論」の研修が終了致しました。その学びの中心テーマは、自分自身の内面と向き合い、どのように分析し、又、変えていくのかだと理解します。「過去と相手、感情と生理反応は変えられない」「変えられるのは自分の思考と行為・今と未来」。オリーブの家のスローガンでもあります「**内側が変わらなければ何も変わらない**」の、まさに実践理論で、人間関係に悩む参加した一人ひとりには大変勉強になったと思います。①どうしたの？（事実・ケンカした）②どうしたいの？（上質世界・仲直りしたい）③どうしたらいい？（行動計画・謝る）この質問を相手だけではなく、自分自身にも問う。これが自分自身を見つめ「自分の思考と行為」を確立することだと思います。人間関係の基本であるところの他者は変える事は出来ない。ならば自分を変えていく！

神様から与えられた有限の命は、自分探しの旅であるのではと新年に想う私です。

オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

ステップ研修を通して気づいたこと。

新年あけましておめでとうございます。２０２４年の抱負として「相手の望んでいることを明確に受け取る」ということがすぐに頭に浮かびました。全５回にわたるステップさんの研修「ＤＶ加害者更生支援プログラム」から学んだことで、自分と相手の望むものの違いを認識し、相手の基本的欲求と心の宝箱に寄り添っていきたいと心から実感しました。過去と相手は変えられない。変えられるのは、自分の思考と行為・今と未来ですね。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（井　博司）

”ＤＶ“と言う言葉を、何度か耳にした事はあっても、どこか他人事でした。この度オリーブの家ステップ研修に参加させて頂き、”ＤＶ“の現状、定義等の学びは私の想像をはるかに超え理解するのに時間がかかりましたが、オリーブの家でファミリーに関わる者として、他人に求めるのでは無く自分自身の内面と向き会うことを学ばせてもらいました。このことを新しい年に、仕事に活かして行ければと思います。ありがとうございました。

（後藤松陽）

昨年はステップさんの研修でＤＶの事、選択理論を学ぶ事が出来て驚きと感謝でした。今マスコミでもパワハラやセクハラのニュースが放送されています。私は鹿児島にいる時の仕事で、いじめにあったり馬鹿にされたり、ある時には叩かれる事もありました。今思えばこれもＤＶになるのかなと思います。でも今は、オリーブの家での生活に本当に感謝しています。この12月3日で丸９年を迎えました。新しい年も、一日一日を大切に感謝して仕事を頑張りたいと思います。様々な方々のお祈りありがとうございます。

（今村光雄）

あけましておめでとうございます。

ステップさんのＤＶ加害者更生支援プログラム研修を５回受けて、人の気持ちは変える事は出来ない。まずは自身が変わらなければならないと学び、ＤＶ加害者のほとんどの方が自身もＤＶをされていた過去を持つ被害者だったことや、それがＤＶとも思わず普通のことだと思っていた事を初めて知りました。だからこそステップさんに教えていただいた３つの質問【どうしたの？（事実）どうしたいの？（上質世界）どうしたらいい？（行動計画）】をして、本人（相手）に気づかせる事が大事なのだと感じました。

今回の学びを通してオリーブの家で本年も実践し、一人ひとりに寄り添える対応ができるようにしっかりと身につけていきたいと思います。

（松崎秀紀）

農園だより　NO.３

さつま芋に続き、次は人参と大根です。ファミリーの方々と間引きをしました。既に５センチくらいまで成長していて、生で食べてもすごく甘く、その美味しさに皆で驚きました。

先日は夏野菜の畝を片付け、土の天地返し（ショベルで深く掘り下げて土の上下を返す作業）を行いました。これを手伝って下さったのは最高齢（86歳）のファミリーのＯ・Ｋさんです。畝の長さが約20ｍ、それを３本、お一人でショベルを踏み込んで天地返しに汗を流して下さいました。私も音を上げてしまうキツイ作業ですが、Ｏ・Ｋさんの仕事ぶりに感服。

この働きでまた土が蘇り新たな野菜たちが植えられ成長し、収穫され、ファミリーのみなさんに喜んでもらえる循環を期待します。（農園長）

支援者からの寄稿

DVはなおせる！

NPO法人 女性・人権支援センターステップ
ファシリテーター　佐藤 敬

1. 信頼

ステップのDV加害者更生プログラムに参加中のある参加者が振り返って言った。「最近体調も優れず、仕事のストレスもたまっていることに気付いていたので気をつけなければと用心してはいたが、昨日帰宅するや否や、妻が『今朝、洗面器汚いままだったよ』とプスッとして言った。つい『一日仕事して疲れて帰ってきたばかりの夫に言うことか!?』と、不機嫌になり、声を荒げてしまった。妻は私以上に大きな声で、『あなた、全然変わってない。ステップで何学んでいるの？ 行くだけ無駄ね！』と返してきた」と。

似たような振り返りは毎週後を絶たない。そのような厳しい指摘に対して、加害者にはひたすら「君の言うとおりだ。頑張っているのだが、まだまだだね。ごめんね」と受容して、謝罪するように励ます。

しかし、不完全な私たちが、一度も失敗しないことなどあり得ない。ところが、加害者は、又怒ってしまうのではないかとの恐れを抱いて、仮に同居に戻っても一度の失敗も許されない！ と針の莚の上を歩く。勿論、加害者が怒りを制御できるようになるためには、毎日、「今日一日怒らないぞ」と強く決意して過ごす必要がある。決していい加減な気持ちでは変われない。

先日、こう振り返った参加者がいた。「『ごめんね。また振り出しに戻ってしまった』と言うと、妻は『振り出しに戻ったなんて考えなくて良いんじゃない？ あなた、大分変ってきているよ』と。本当に嬉しかった。救われました」と。スタッフも嬉しく、感動した。

「変化の条件」という学びがある。①願望 ②情報 ③気付き ④実践 ⑤信頼の5つだ。5つ目の信頼だが、誰が誰を信頼するのか。まず、私たちスタッフが「あなたは変われる」と加害者を信頼する。そして、加害者自身が自分は変われる。変わるんだと自分を信頼する必要がある。そして、何よりも大きいのは妻が「大丈夫、あなたは変われる」と信頼することだ。

DV被害者は受けた傷から立ち直ることが非常に難しく、時間がかかると言われる。もし加害夫が更生に取り組んでいるならば、その支援者になって頂けたらと心から願う。そうすることで加害者がどんなに励まされるかは言うまでもないが、そのことによって、被害者自身がいつまでも被害者意識の中にどっぷり浸かり続けることを止めて、二人の関係性の再構築のために前向きに取り組むことができるのではないだろうか。

怒りの制御を習慣化し、夫婦関係、家族関係を再構築していく作業は決して孤軍奮闘ではなく、関係する者全員の共同作業ではないだろうか。

佐藤　敬
さとう・けい

1945年生まれ。高知県出身。日本選択理論心理学会会員。柿谷カウンセリングセンター結婚紹介室室長、カウンセラー。元リアリティセラピー協会グループホーム生活指導員。元立正大学心理学部講師。お茶の水聖書学院卒。藤沢福音自由教会会員。6年前からステップのDV加害者更生プログラムに関わっている。
著書：「アメリカの大学で」
「英語の色ミニ百科」
訳書：「とっておきのクリスマス」
「ハッピーティーンエイジャー」
「ウイリアム・グラッサー」ほか

オリーブの家で見つけた笑顔

ありがとう！　餅つき大会

コロナ後、初めての餅つき大会でした。毎年餅を届けて私どもを支援して下さる更生保護女性会の方々が誘ってくださり、12名で参加しました。

人生で初の餅つきだと言う最高齢のOさんも、エプロンを真っ白にしながら餅を丸めています。和菓子の仕事をして腕に覚えのある一人は、軍手をはめてあっつ熱のつき立ての餅をちぎっています。お見事です！洗い方片付け作業等々更女のママさんに混じって皆さん楽しく頑張っていました。

昼食は、お赤飯・炊き込みおこわ・漬物にお澄まし・つき立ての餅を入れたぜんざいなど、我が家に帰ったようなおもてなしをいただきました。皆んな身も心も笑顔の一日でした。

副理事長　小原順子

2023年９月～１１月会計報告

		9月	10月	11月
月次自立準備支援人数		4名／6室	6名／6室	6名／6室
グループホーム利用者数		7名／8室	8名／8室	8名／8室
累計ファミリー数		154名	156名	156名
収入	自立準備ホーム	497,178	708,350	855,360
	献金	1,607,500	2,719,500	491,650
	グループホーム	1,866,286	2,246,290	2,178,077
	その他	92,834	76,847	71,628
収入合計		4,063,798	5,750,987	3,596,715
支出	家賃	457,600	457,600	457,600
	水道光熱費	143,125	169,663	151,929
	食費	420,482	396,752	519,642
	人件費	2,022,280	1,898,522	2,009,387
	活動費	153,332	108,211	88,590
	その他経費	386,569	755,721	456,546
支出合計		3,583,388	3,786,469	3,683,694
収支合計		480,410	1,964,518	-86,979

前月繰越現金預金残高	3,847,829	4,901,347	4,390,783
翌月繰越現金預金残高	4,901,347	4,390,783	3,916,388
施設準備積立金残高	2,500,088	2,550,093	2,600,093

※その他経費には、社労士への業務委託費49,500円が含まれています。

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ

昨年はアパート一棟の購入計画が中止、役員数の減少など残念な事もありました。又、車椅子で乗車できる福祉車両の購入ができたり、DV加害者更生勉強会、秋にはオリーブの家の墓（メモリアルプレイス）の購入と、色々ありました。これも皆様からのご支援により進めることができたことと、深く感謝申し上げます。令和６年を迎え、部屋も満室で稼働することになり、新たな目標に向かって歩き始めます。皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。感謝感謝。

監事　馬原清隆

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：**0182**）
京町支店（支店コード：**156**）
口座番号：（普通）**1574408**
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：**990**）
口座番号：**17180-5444801**
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：**718**
口座番号：（普通）**0544480**

月刊オリーブ
2024年１月１日発行
(毎月1回発行)　第104号

編集・発行　ＮＰＯ法人「オリーブの家」
〒860-0082　熊本県熊本市西区池田２丁目９番１号コーポ池田201
TEL 096-342-4123　FAX 096-342-4248　E-mail 0110harvest@gmail.com
http://seishoforum.net/olive-house/about/